

# CAM優先出資証券ファンド 通貨選択型 (米ドルコース)

月次レポート

追加型投信／内外／資産複合

Capital Asset Management

## 商品概要・特色

### 商品概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
投資対象	「優先出資証券マザーファンド」への投資を通じて、国内外の主要金融機関が発行したユーロ建て・米ドル建ての優先出資証券、劣後債等を実質的な主要投資対象とします。
設定日	2013年4月12日
信託期間	2013年4月12日～2023年4月12日まで
決算日	年2回。原則、毎年4月12日および10月12日(休業日の場合は翌営業日)。

### 為替取引手法

米ドルコース	原則として、ユーロ売り、米ドル買いの為替取引を行なうことで、米ドルへの投資効果を追求します。
--------	--

## 各ファンドの現状・運用実績

基準日		米ドルコース
2018年10月31日		
基準価額		9,908 円
前月比		-157 円
純資産総額		2.38 億円
前月比		-0.04 億円
期間 収益	1ヵ月	-1.6%
	3ヵ月	0.8%
	6ヵ月	1.0%
	1年	-4.2%
	設定来	43.6%

分配金実績		
第1期～第6期		3,900 円
第7期	2016年10月12日	0 円
第8期	2017年4月12日	0 円
第9期	2017年10月12日	200 円
第10期	2018年4月12日	0 円
第11期	2018年10月12日	0 円
合計		4,100 円

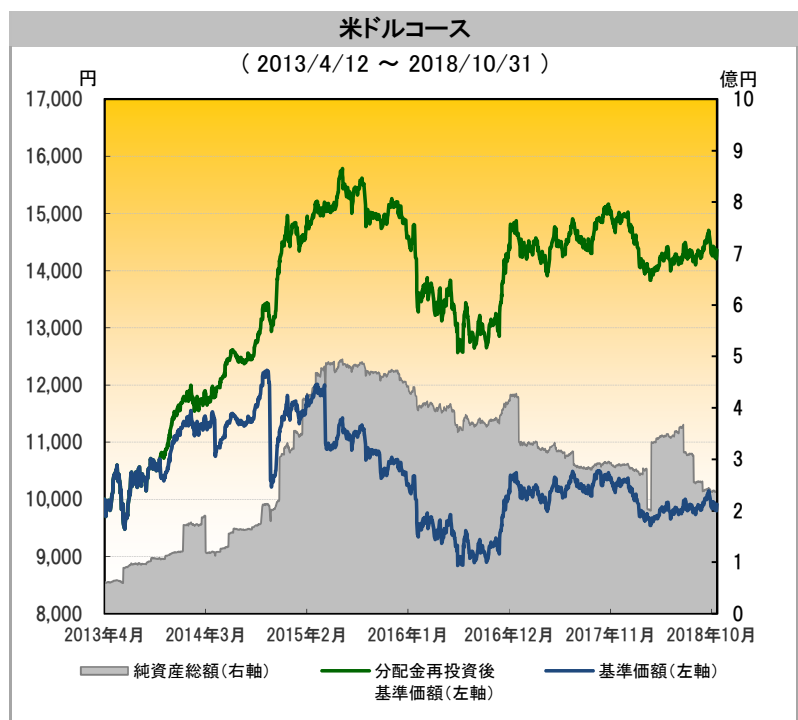
※ファンドの期間収益は、基準価額に収益分配金(税引前)を加算した理論上のものである点にご留意下さい。

## 資産組入状況

資産構成	米ドルコース
優先出資証券マザーファンド	95.7%
現金・その他	4.3%
合計	100.0%

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

## 基準価額・純資産総額の推移等(設定来)



記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。取得申込に際しては必ず「投資信託説明書(交付目録見書)」の内容をご確認ください。

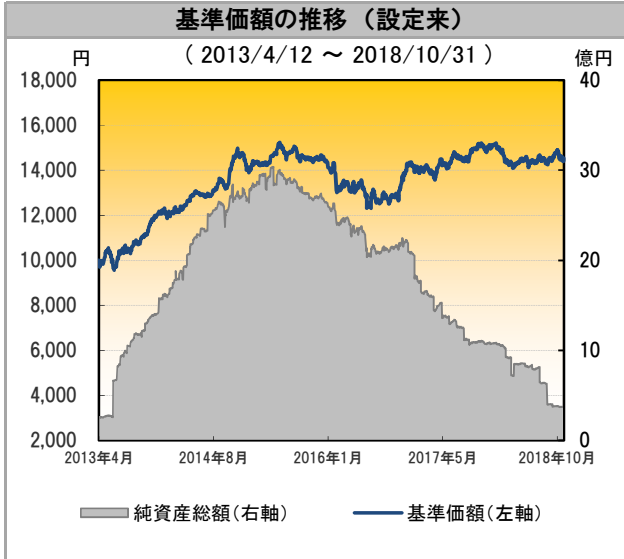
# CAM優先出資証券ファンド 通貨選択型 (米ドルコース)

月次レポート

追加型投信/内外/資産複合

Capital Asset Management

## 優先出資証券マザーファンド



マザーファンドの現状	
基準日	2018年10月31日
基準価額	14,540 円
前月比	-273 円
純資産総額	3.73 億円
前月比	-0.07 億円

期間収益	
1 カ月	-1.8%
3 カ月	0.7%
6 カ月	0.5%
1 年	-3.3%
設定来	45.4%

資産構成	
優先出資証券・劣後債	92.8%
現金・その他	7.2%
合計	100.0%

※ 表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

特性	
修正デュレーション	5.4年
平均格付け	A
平均直接利回り	5.9%
平均最終利回り	6.5%

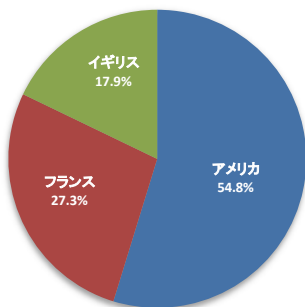
※ 修正デュレーション: 金利が一定割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す指標。

※ 平均格付: 格付けランクを数値化し、組入比率で加重平均。

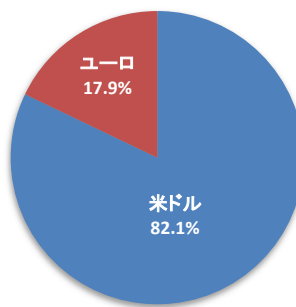
※ 平均直接利回り: 時価から直接利回りを計算し、組入比率で加重平均。

※ 平均最終利回り: 時価から初回コールまでの最終利回りを計算し、組入比率で加重平均。

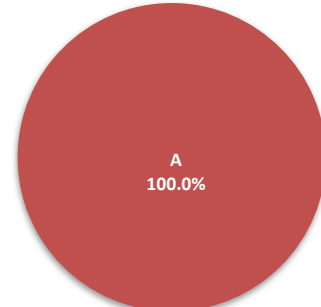
発行体国別構成



通貨構成



格付構成



※ 発行体国別構成・通貨構成・格付構成の割合は、ポートフォリオのうち現金を除いた部分の割合を表示しております。

※ 表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

組入銘柄 上位5銘柄					
銘柄	発行国	種類	通貨	格付	組入比率
BNPパリバ 7.195% 2037/6/25	フランス	劣後債	米ドル	A	25.4%
シティグループ 6.300% 2024/5/15	アメリカ	優先出資証券	米ドル	A	21.2%
バークレイズ 4.750% 2020/3/15	イギリス	優先出資証券	ユーロ	A	16.6%
ウェルズ・ファーゴ 5.900% 2024/6/15	アメリカ	優先出資証券	米ドル	A	15.3%
バンク・オブ・ニューヨーク・メロン 4.5% 2023/6/23	アメリカ	優先出資証券	米ドル	A	14.4%

※ 格付けは、大手格付機関の保証体格付けを採用しています。ただし、保証体格付けがない場合は、発行体格付けを採用しています。

# CAM優先出資証券ファンド 通貨選択型 (米ドルコース)

月次レポート

追加型投信／内外／資産複合

Capital Asset  
Management

## 市況コメント

### ■ 債券市場の動向

- 米国10年国債利回り: 10月末 3.14% (前月末比8bp上昇)
- ドイツ10年国債利回り: 10月末 0.39% (前月末比8bp低下)
- ※10月末=10月31日(日本の月内最終営業日)
- ※1bp(basis point、ベースポイント)= 0.01%

10月の米国債券市場は、3日に公表された米供給管理協会(ISM)の9月製造業景気指数が8月の約14年ぶりの高水準を更に更新し、5日に発表された9月雇用統計でも失業率が3.7%と49年振りの低水準となり、10年国債利回りは2011年以来の3.2%台まで上昇して始まりました。しかし金利上昇懸念等を背景として10日以降、グローバルな株式市場の急落が発生したことを受け、11日には3.15%まで利回り低下となり、株式市場のボラティリティを表すVIX指数も25まで上昇、その後も高い水準を維持しました。26日には一段の株安を受けて安全資産に対する需要が高まり、10年国債利回りは3.08%まで低下となりました。月末にはフェイスブック等の好決算を受けてハイテク株に買戻しが入り株価が上昇、政府による雇用統計の先行指標であるADP雇用統計も8カ月振りの大幅増加となる中、長期金利は前月末対比では8bp上昇の水準である3.14%で月末を迎えました。

欧州債券市場における注目は9月に続き、10月もイタリア国債となりました。月初めは有力議員がユーロ離脱も辞さないといった発言を受けてイタリア10年国債は4年半振りとなる3.44%まで上昇しましたが、9日のトリア経財相による「あらゆる手段を尽くす」との発言を受け、月の半ばまでは緩やかに利回り低下が続きました。しかし17日の独シュピーゲル誌が欧州委員会委員の「イタリア予算案は欧州連合(EU)の財政規律に沿っていない」との見解を報道したことを受けて長期国債利回りは3.54%に上昇、安全資産としての買いが入ったドイツ10年国債が0.45%と2週間振りの水準に低下した結果、両国の利回り格差は300bp超まで拡大しました。更に23日には欧州委員会がイタリアの来年度予算を拒否することを決め、3週間以内に新たな予算案を示すことを要求したため、イタリア10年国債は3.59%まで上昇しました。29日にはドイツのメルケル首相が再選を断念すると表明したことを受け、一時的にドイツ国債利回りが上昇する局面もありましたが、やはりグローバルな株安とイタリアに対する懸念を受けて利回りは緩やかに低下を続け、結局前月末比では8bp低下の0.39%で月末を迎えました。

ハイブリッド証券(優先出資証券)市場はグローバルな株価急落に対しては比較的安定的ではあったものの、全般的には弱い展開が続きました。

### ■ 為替市場の動向

- 米ドル: 10月末 113.26円(前月末比0.27%米ドル安/円高)
- ユーロ: 10月末 128.43円(前月末比2.81%ユーロ安/円高)
- ※10月末=10月31日(日本の月内最終営業日)
- ※為替レートは、投資信託協会が発表した数値を使用しています。

10月の為替市場は、米ドルは“行って来い”の展開を経てほぼ横ばい、ユーロに関しては比較的大幅な円高となりました。

米ドルに関しては、月初めの好調な米国経済指標を受けて米ドルが上昇、対円では2017年11月以来となる114円台まで円安となりました。しかしその後はグローバルな株安と米国長期債利回りの低下を受けて米ドルが売られ、対円では16日に111.89円まで円高が進みました。その後はしばらく一進一退の動きが続きましたが、月末のADP雇用統計が8カ月振りの大幅増加となったことを受け、主要6通貨バスケットに対するドル指数は97.09と1年4カ月振りの高値となり、対円では昨年12月以来9カ月振りとなる113.26円まで戻して月末を迎えました(前月末比0.27%の米ドル安/円高)。

ユーロに関しては、引続きイタリアにおける予算協議の混迷が重しとなり、対米ドル・対円共にユーロが売られる展開が続きました。実際に18日、イタリア予算案がEUの財政規律に沿っていないと欧州委員会が判断したことから、対円では127円台までユーロが売りこまれる展開となりました。月末には独メルケル首相がキリスト教民主同盟(CDU)の党首としての再選を目指さないと意向を示したことを受けて対米ドルではユーロが一段安となる中、対円では若干の買戻しがあり、結局前月末比2.81%のユーロ安/円高の水準である128.43円で引けました。英ポンドに関しては、月の半ばにはEU離脱交渉を楽観視する見方が広がった際、一時的に英ポンド高となる局面もありましたが、後半には英メイ首相が北アイルランドを関税同盟に留めるというEU側の提案を否定したことを受け、前月末比3.12%の英ポンド安/円高となる143.90円で引けました。

# CAM優先出資証券ファンド 通貨選択型 (米ドルコース)

追加型投信/内外/資産複合

Capital Asset Management

## ★ ファンドの運用について

■ 主に、国内外の主要金融機関が発行したユーロ建て・米ドル建ての優先出資証券、劣後債等への投資に注力し、分散されたポートフォリオを構築することを目指します。

■ トップダウン分析とボトムアップ分析を組み合わせたアプローチを用います。

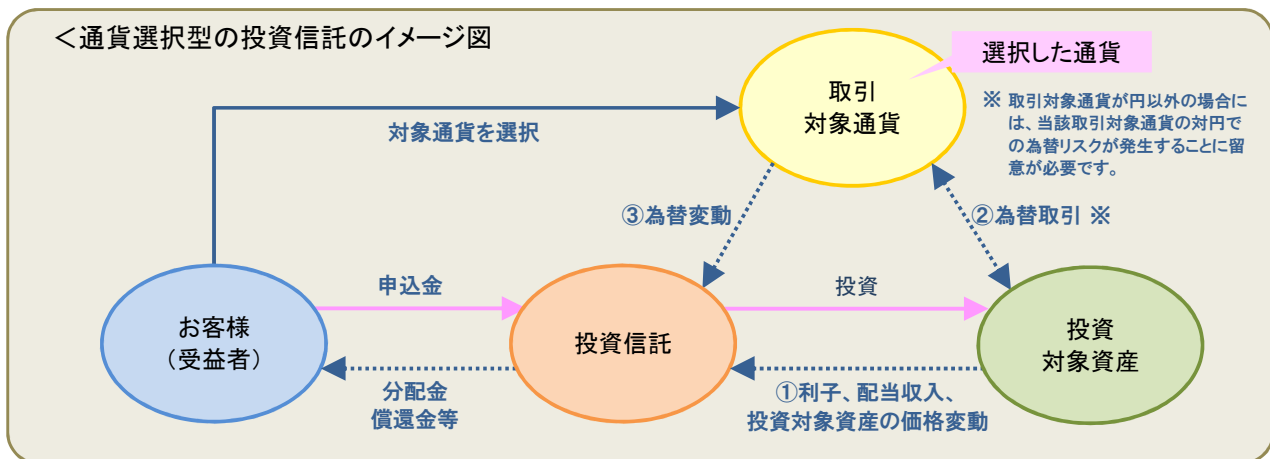
- トップダウン分析では、マクロ経済動向および政治情勢等の見通しについて検討し、投資判断に活かします。
- ボトムアップ分析では、国内外の主要金融機関の貸借対照表、損益計算書などの財務諸表分析やその他情報等を参考に、その金融機関が発行する証券への投資可否判断を行ないます。

※ なお、市況動向および資金動向により、上記の様な運用が行えない場合があります。

## ★ 通貨選択型ファンドの収益/損失に関するご説明

通貨選択型の投資信託の収益源として以下の3つの要素が挙げられます。

これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。



収益の源泉 = ① 利子・配当収入 投資対象資産の価格変動 + ② 為替取引による プレミアム/コスト + ③ 為替差益 / 為替差損

収益を得られるケース	投資対象の市況の好転 (金利の低下等*)	取引対象通貨の短期金利が投資対象資産の通貨の短期金利を上回る	取引対象通貨が対円で上昇(円安)
	投資対象資産(債券等)の価格の上昇	プレミアム(金利差相当分の収益)の発生	為替差益の発生
損失やコストが発生するケース	投資対象資産(債券等)の価格の下落	コスト(金利差相当分の費用)の発生	為替差損の発生
	投資対象資産の市況の悪化 (金利の上昇、発行体の信用状況の悪化等*)	取引対象通貨の短期金利が投資対象資産の通貨の短期金利を下回る	取引対象通貨が対円で下落(円高)

※ 投資対象資産の価格の上昇/下落の要因は、資産の種類(債券、株式、不動産等)により異なります。

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。取得申込に際しては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をご確認ください。

# CAM優先出資証券ファンド 通貨選択型 (米ドルコース)

月次レポート

追加型投信／内外／資産複合

Capital Asset Management

## ✦ ハイブリッド証券の固有の留意点について

期限前償還等に関する留意点	ハイブリッド証券には、繰上償還条項が設定されているものが多くあります。金利低下局面で繰上償還された場合には、当該金利低下による価格上昇を享受できないことがあります。また、予定通りに繰上償還されない可能性がある場合等には、価格が下落することがあります。
流動性に関する留意点	一般的に、ハイブリッド証券は、株式に比べて市場規模や取引量が少ないため、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあります。
法的弁済順位に関する留意点	一般的に、ハイブリッド証券は、法的弁済順位では株式に優位し普通社債に劣後します。また、一般的に普通社債と比較して、低い格付が格付機関により付与されています。
利息や配当の支払いに関する留意点	ハイブリッド証券には、利息や配当の支払繰延条項がついているものが多くあります。発行企業の業績の著しい悪化等により、利息や配当の支払いが繰り延べられたり、停止されたりする可能性があります。
制度変更等に関する留意点	税制の変更等、ハイブリッド証券にとって不利益な制度変更等があった場合は、市場規模が著しく縮小し、価格が下落することがあります。
発行企業の業種に関する留意点	ハイブリッド証券は金融機関によって発行されることが多く、金融政策や金融システムの動向等、金融セクター固有の要因により価格が大きく変動することがあります。このため、例えば幅広い業種の債券に投資する場合と比較して基準価額の変動が大きくなる可能性があります。

## ✦ ファンドに係わるリスクについて

当ファンドの基準価額は、主に以下のリスク要因により、変動することが想定されます。

ハイブリッド証券の価格変動リスク	当ファンドは、主に優先出資証券、劣後債などのハイブリッド証券に投資します。ハイブリッド証券は、社債に類似した性質を持ち、内外の政治、経済、社会情勢等の影響により市場金利が上昇するとその価格は下落します。また、ハイブリッド証券の利息や配当等の支払いに影響を及ぼす発行企業の事業活動や財務状況の変化等によってもその価格は変動します。ファンドが保有するハイブリッド証券の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、前述の「ハイブリッド証券の固有の留意点」もご参照ください。
債券市場リスク	内外の政治、経済、社会情勢等の影響により債券相場が下落(金利が上昇)した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ファンドが保有する個々の債券については、下記「信用リスク」を負うことにもなります。
為替変動リスク	当ファンドは、主にユーロ建て・米ドル建ての優先出資証券、劣後債等に投資します(ただし、これに限定されるものではありません)。投資している通貨が円に対して強く(円安に)なればファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なればファンドの基準価額の下落要因となります。したがって、投資している通貨が対円で下落した場合には、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
カントリーリスク	投資対象国の政治経済情勢、通貨規制、資本規制等の要因により、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。また、新興国の経済状況は、先進国に比較して脆弱であるため、インフレ、国際収支など経済の悪化や政治不安、社会不安などが株式市場や為替市場に及ぼす影響は、先進国以上に大きくなる可能性があります。
信用リスク	株式を発行する企業が、経営不安・倒産等に陥った場合、投資した資金が回収できなくなることがあります。また、こうした状況に陥ると予想された場合、当該企業の株式等の価値は下落し、当ファンドの基準価額が下がる要因となる可能性があります。
流動性リスク	急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に保有有価証券等を売買できないことがあります。このような場合には、効率的な運用が妨げられ、当該株式の保有有価証券等の下落により、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。取得申込に際しては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をご確認ください。

# CAM優先出資証券ファンド 通貨選択型 (米ドルコース)

追加型投信/内外/資産複合

Capital Asset Management

## お客様にご負担いただく費用

- ①お申込時に直接ご負担いただく費用
    - 購入時手数料:原則として毎月12日及び27日の基準価額に**3.24%(税抜3.0%)**を上限として、販売会社がそれぞれ定める手数料率を乗じて得た額とします。
  - ②ご解約時に直接ご負担いただく費用
    - 信託財産留保額:原則として毎月12日の基準価額に対して**0.30%**
  - ③投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用
    - 信託報酬:信託財産の純資産総額に対して年率**1.5660%(税抜1.450%)**
    - その他費用:有価証券等の取引に伴う手数料(売買委託手数料、保管手数料等)、監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用等
- ※上記の費用(手数料等)の合計額は保有される金額および期間等により異なりますので、予め表示することができません。  
※詳しくは「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

## 【お申込に際してのご注意】

- 1.当ファンドは、「優先出資証券マザーファンド」の受益証券への投資を通じて、国内外の主要金融機関が発行したユーロ建て・米ドル建ての優先出資証券、劣後債など値動きのある有価証券に投資します(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、**金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。また、ファンドは預金または保険契約ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。**第一種金融商品取引業者以外の金融機関は投資者保護基金に加入していません。
- 2.本資料はキャピタル アセットマネジメント株式会社が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法により義務づけられた資料ではありません。お申込の際には、投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめあるいは同時にお渡しますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 3.この資料におけるデータ・分析等は過去の実績に基づくものであり、将来の運用成果および市場環境の変動を保証もしくは予想するものではありません。
- 4.本資料はキャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

## 委託会社その他関係法人の概要

- 委託会社: 信託財産の運用業務等を行います。  
キャピタル アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者関東財務局長(金商)第383号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/ 一般社団法人日本投資顧問業協会
- 受託会社: 信託財産の保管・管理業務等を行います。  
三井住友信託銀行株式会社
- 販売会社

金融商品取引業者名	登録番号	日本証券業協会	協会 日本 一般社団法人 投資顧問業	協会 金融 先物取引業	取 引 業 協 会 一 般 社 法 人	第一種 金融 商品 法 人
キャピタル・パートナーズ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第62号	○				○
FPL証券株式会社	金融商品取引業者 北海道財務局長(金商)第45号	○				

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。取得申込に際しては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をご確認ください。